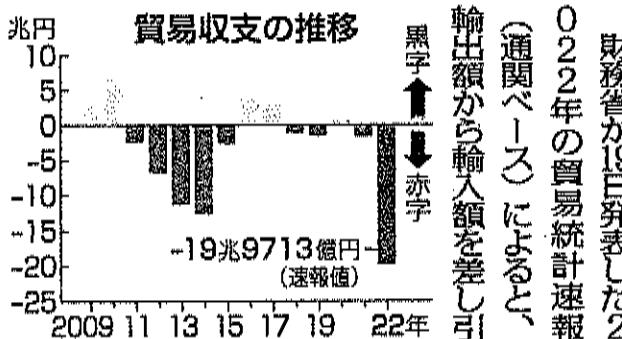


# 22年貿易赤字 過去最大

19.9兆円 資源高や円安響く



## 経済構造のゆがみ反映

### 解説

過去最大の貿易赤字は日本経済の構造ゆがみの表れです。

輸入額増加の主因である異常円安を招いたのは金融緩和頼みのアベノミクスです。非正規雇用の拡大や消費税増税で国民の所得を減らした上、輸入物価の高騰で生活と営業を一層の苦境に追い込み、無残に破綻しました。エネルギーと食料の海外依存も、輸入額増加

の要因です。

製造業でも、電算機類や音響映像機器、通信機などは軒並み巨額の貿易赤字となりました。輸出額は18・2%増の98兆1860億円でした。自動車や鉄鋼の増加が目立つています。大企業の海外移転で製造業が「空洞化」したためです。

実効性のある貿易政策として同時に発表された22年12月単月の貿易収支は1兆4485億円の赤字で、12月としては過去最大の赤字幅を記録。赤字は17カ月連続でした。

(杉本恒久)

いた貿易収支は19兆9711によるウクライナ侵攻など3億円の赤字でした。資源を背景に資源価格が上昇し、原油や石炭、液化天然ガス(LNG)が増えました。

価格の高騰や円安で輸入額が大きく膨らみました。赤字幅は14年の12兆8161億円を上回り、比較可能な1979年以降、年間で過去最大。赤字は2年連続となりました。

輸入額は前年比39・2%

と過去最高でした。

増の11兆1573億円で、初めて年間で100兆円を上回りました。ロシアは、円安が進行したこと

も輸入額の増加につながりました。

平均為替レートは1ドル130円台と、前年

の109円台より19・5%

の円安となりました。

輸出額は18・2%増の98兆1860億円でした。自

動車や鉄鋼の増加が目立つています。大企業の海

外輸出額も過去最大でし

たが、輸入の伸びには追い

付ませんでした。

（付）